

国際交流員がモンゴルを紹介！

連載

ほのぼの日記

第46回 Happy New Year!



新年あけましておめでとうござい
ます。うらかな新春を迎え、ま
ますご壮健のことと心よりお慶び申
し上げます。

冬も大好きですが、新春という言
葉を聞くだけで、なんだかワクワク
します。今モンゴルの気候は極寒の
冬季にあたり、毎日凍えるような寒
さで、春の訪れにはまだまだ早いで
しょう。伊豆の冬はモンゴルの春季
のような気候で、私は時折、雪が恋
しくなりますが、雪が積もっている
富士山が見られるだけで、なんだか
嬉しくなります。

さて、今年には日本モンゴル外交
係樹立50周年という記念すべき年を
迎えます。昨年、7月に行われた両
国首脳会談において、2022年を
「青少年交流促進年」としました。
伊豆の国市は、平成27年8月5日

にモンゴル国ウランバートル市ソ
ギノハイルハン区と都市交流に関す
る覚書を締結し、2020年東京オ
リンピック・パラリンピックの事前
キャンプ地として柔道モンゴル代表
チームを受け入れるなど、さまざま
な交流をしてきました。そうした交
流の一環で、伊豆の国市友好都市交
流協会は平成28年度より、市内中学
生を対象として、モンゴル国を訪問
する海外研修事業を実施してしまし
た。残念ながらこの2年間の研修は
中止となりましたが、それまでは毎
年数多くの生徒が参加してくれてい
ました。彼らにとつて、同年代の外
国の子どもたちと交流し、日本とは
違う風土や文化を肌で感じる良い体
験になったのではないのでしょうか。

本事業に参加した中学生の多く
は、モンゴルについて今まで抱えて
きたイメージが違ったこと、コミュ
ニケーションには言葉が重要で
すが、言葉以上に大切なことは「自分
から知ろうとし、理解しようとする
事」だと感じたようです。そして
言葉や文化は違って心が通じ合え
る、モンゴルに行ったことで日本の
良さを見つめるいい機会になった、
などの感想が印象的でした。

先月開催された伊豆の国市柔道連
盟主催、「伊豆の国市長杯第6回伊
豆の国市少年柔道錬成大会」では、
新型コロナウィルスの影響でモンゴ
ル国からの参加がなかったことが残
念でした。しかし来年は楽しく交流
ができることを期待するという声を
多く聞きました。

このようにたくさんの方の交流事業を
通じて、子どもたちには国際的な視
野を広げて、今後もいろいろなこと
にチャレンジしていつてほしいです
ね。私も負けずに、いろいろなこと
に興味を持ち続け、たくさんチャレ
ンジできる一年にしたいです。
それでは、バイタルエ。

市長公室
055(948)1431



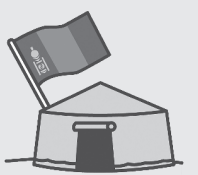
▲平成30年にモンゴル国を訪問した中学生

モンゴルクイズ (答え)

モンゴル人は羊肉を一番多く食べますが、つぎに多く食べられるのは何肉でしょうか？

- ①豚肉、②鶏肉、③牛肉、④馬肉

正解は、③牛肉でした。
モンゴルでは、羊肉→牛肉
→馬肉→鶏肉→豚肉の順で
よく食べられています。



あなたも狙われるかも！悪質商法に「用心」

「サブスク契約の トラブルにご注意！」

(文と絵) 司法書士 山田茂樹

通販サイトの有料会員、動
画配信、ダイエットトレーニ
ングアプリなど多様な契約
で、いわゆるサブスク契約(サ
ブスクリプション契約)定め
られた料金を定期的に支払う
ことにより、一定期間、商品
やサービスを利用することが
できるサービス)の方法によ
る場合がみられます。
こうしたサブスク契約の典
型的なトラブルは、当初「無

料トライアル期間」などと表
示があったため、試しに申し
込みをしたところ、一定期間
経過後に自動的に有料の継続
契約に移行し、継続的に費用
がクレジットカード決済され
るなどといったものです。
「興味があるサービスだ、
さつそく申込み」とクリック
する前に、今一度、契約内容
を慎重に確認してください。



©Shigeki Yamada

【消費生活相談】 伊豆の国市役所伊豆長岡庁舎
相談日：毎週月～金曜日、9：00～16：00
(12：00～13：00、年末年始・祝日は除く)
※相談員による相談は月・水・金曜日
☎ 伊豆の国市消費生活センター ☎ 055-948-2901

伊豆市役所 (伊豆市小立野)
相談日：毎週火～木曜日、8：30～17：15
(12：00～13：00、年末年始・祝日は除く)
☎ 伊豆市消費生活センター ☎ 0558-72-9858

市民の「チカラ」を紹介します！

～市民活動のススメ～【第3回】

地域づくり推進課
055-948-1412

地域おこし体験を通じた 心のふれあいを 江間みのり会

代表 朝香一 ☎ 090-4261-3920

どのような活動をしていますか？

アイガモ農法による米づくりや無農薬のさつまいもづくりといった活動を通じて、子どもたちへの食育や地域づくりに取り組んでいます。栽培するお米は、もち米とうるち米で、収穫したもち米を使って地域のひとと一緒に餅つきも実施しています。

あいや絆づくりを大切にしています。次の世代を担う子どもたちには、太陽の光を浴びて耕作してもらいたい、同時に命の大切さを学んでもらいたいと思います。

活動を通じてうれしかったことは？

子どもたちには、収穫したうるち米のおにぎりや飼育したアイガモを鴨鍋にして食べてもらったこともありました。子どもたちにとっても貴重な体験であったと思います。普段は作文が苦手な子が、たくさん作文を書けたと先生から言われたことはうれしかったです。

読者へのメッセージ

私たちの活動は、2012年から仲間と仲良く穏やかに続けてきました。継続は力なりと言いますが、長く活動を続けるためには自分たちが楽しむことが大切です。こういった市民活動は、ぜひ伊豆の国市全体に広がってほしいです。



▲アイガモ農法の様子

活動で大切にしていることは？

地域おこし体験を通じて、人と人との心のふれ